

核兵器禁止、核兵器廃絶の先頭に！ 被爆73周年原水禁大会



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
真島勝重



被爆七三周年原水爆禁止世界大会は、七月二十八日・福島、八月四日から六日・広島、八月七日から九日・長崎で開催されました。各大会に参加した方々からレポートが寄せられていますので以下に掲載します。

〔広島大会〕

総会には二二〇〇人が参加し、佐古副実行委員長が「日本が世界で本は核兵器禁止条約に即座に批准し、先頭に立つて核保有国を説得するべきだ」とあいさつし開会されました。

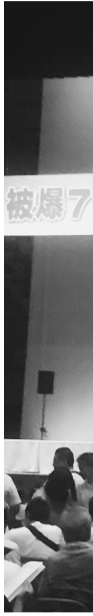
二日目に秋葉元広島市長による分科会に参加、二〇一七年七月核兵器禁止条約の成立、二〇一八年六月米朝首脳会談開催と世界の核状況が大きく変わってきたことをどのよう

「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、「我が国の使命です」と述べた。

「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、「我が国の使命です」と述べた。

「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、「我が国の使命です」と述べた。

「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、「我が国の使命です」と述べた。



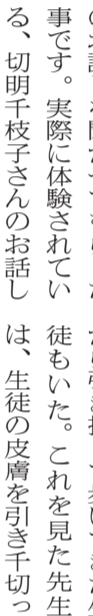
つ、また核軍縮の進め方については、各国の考え方の違いが顕在化している。「核兵器のない世界」を実現するためには、被爆の悲惨な実相の正確な理解を出発点として、核兵器国と非核兵器国双方の協力を得ることが必要で、我が国は、非核三原則を堅持しつつ、粘り強く双方の橋渡しに努め、国際社会の取り組みを主導していく決意ですと発言しながら、この条約に反対し交渉にも参加せず米国の核抑止政策の枠内で安全保障を確立

「広島大会」
一番自分の中で感じた事は、今生きている事、当たり前のように一日を過ごせていられる事がどれだけありがたくなってきた。その想いが強くなったのは、被爆証言をされていた切明千枝子さんのお話しを聞かせてもらった事です。実際に体験されている、切明千枝子さんのお話し

「大阪支部 吉本賢一」
は凄くリアルティーがありました。広島に原爆が投下され切明さんが命からがら学校へ避難していた時、そこには誰も腕からは昆布のように見えた皮膚が垂れ下がっていた。中には、昆布のようなものを足首から引き摺って歩いてきた生徒もいた。これを見た先生は、生徒の皮膚を引き千切っ

「長崎大会」
長崎県支部を中心に、中央本部より松谷特別執行委員と内閣の決断に怒りを滲ませる話もありました。

「長崎大会」
八日は各テーマに沿った分科会が長崎市内各所で開催されました。私たちは「平和と核軍縮」をテーマとした分科会に参加しました。その中で、辺野古新基地建設の土砂搬入を目前にする沖縄をテ



てあげたらしく、生徒は「先生有難う。これでちゃんと歩けるようになりました」と言っていたらいいです。学校まで送り着いても薬もなく、家庭科で使うための菜種油が残っていたのでそれを傷に塗って上げるのが精一杯だったそうです。そして、帰って来た生徒たちは次々と亡くなっていったとのこと。も

最後に、切明さんは「子供も、大人も、お年寄りもそれぞれ出来る事がある。自分の出来る事で平和を守っていきましょう」と。切明千枝子さんだからこそ言える言葉だと思いましたが、

原爆投下・終戦から今年で七三年が経ち語り継ぐ人も少なくなりました。核も戦争もない平和な世界が必ず訪れてくれる事を信じて、私は私なりの出来る事を、精一杯して行こうと感じました。

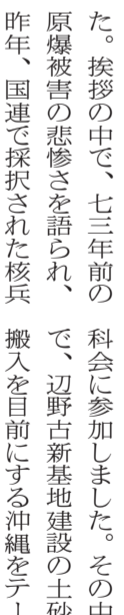
最後に、切明さんは「子供も、大人も、お年寄りもそれぞれ出来る事がある。自分の出来る事で平和を守っていきましょう」と。切明千枝子さんだからこそ言える言葉だと思いましたが、

原爆投下・終戦から今年で七三年が経ち語り継ぐ人も少なくなりました。核も戦争もない平和な世界が必ず訪れてくれる事を信じて、私は私なりの出来る事を、精一杯して行こうと感じました。

最後に、切明さんは「子供も、大人も、お年寄りもそれぞれ出来る事がある。自分の出来る事で平和を守っていきましょう」と。切明千枝子さんだからこそ言える言葉だと思いましたが、

原爆投下・終戦から今年で七三年が経ち語り継ぐ人も少なくなりました。核も戦争もない平和な世界が必ず訪れてくれる事を信じて、私は私なりの出来る事を、精一杯して行こうと感じました。

最後に、切明さんは「子供も、大人も、お年寄りもそれぞれ出来る事がある。自分の出来る事で平和を守っていきましょう」と。切明千枝子さんだからこそ言える言葉だと思いましたが、



マに議論が展開されました。重要課題であることがわかります。

九日には閉会式が開催され、藤本康成大会事務局長から大会まとめの話がされ、大会宣言採択も満場一致で確認されました。その後、参加者全員による閉会式会場から爆心地公園までの非核平和行進を行い、十一時二分の原爆投下時刻に戦没者、被爆者に対する黙祷を行い、大会を終えました。

大会に参加して、平和の大切さを再認識させられ、今秋の国会で憲法九条の改悪案が提出されると囁かれています。中、被爆国の国民として悲惨な戦争を繰り返させる訳にはいかない、また戦争利用も考えられる「原子力」という危険なものを生み出してしまっている。核と人間は共存できない」という考えの基、一部の人間の都合や利益のために国民、特に未来ある子供たちを危険にさらす訳にはいかない、「脱原発」や世界の非核化に向けても、今、我々が声を上げ戦争や被爆といった経験の上で学んだ平和や美しい地球を守り明るい未来を後世に残す義務があると思えました。労働組合としても運動の大切さ、展開の仕方を再度考えなければいけない気持ち大きくなる大会でした。暑い中での開催となりましたが、参加された皆さんも今後に向けた運動を共に考えそれを広く伝え、展開していくよう頑張ります。

九州地方長崎県支部
執行副委員長 福江浩二

九州地方長崎県支部
執行副委員長 福江浩二

九州地方長崎県支部
執行副委員長 福江浩二

九州地方長崎県支部
執行副委員長 福江浩二

九州地方長崎県支部
執行副委員長 福江浩二





「福島大会」
二〇一一年三月の福島第一原発事故から、毎年、福島大会が開かれるようになり、今年も県内外から六四〇人が参加しました。

黙とうに続いて、主催者挨拶で西尾大会副実行委員長は「原発事故から七年以上が経ったが、いまだ収束のめどもたない中で、安倍政権は再稼働や輸出など原発推進政策を進めている」などと、規制委員会の審査を強く批判し、「原発も戦争もない社会の実現に向けて、大会を成功させよう」と呼びかけています。



今年の第二世代高校生平和大使に福島県から選出された福島市内の高校生、鈴木さんは「原発事故は私たちが自由と希望を奪い、未だに心の傷が残っている。しかし、平和大使として核のない世界をめざしていく」と述べていますが、若い世代にも大きな負担をかけたこの原発事故は多くの人々に被害をもたらしました。現在福島県内では健康調査が行われていますが、今まで原発政策を進めてきた国が責任を持って行うべきです。事故当時一八歳以下だった子供や若者を対象に行われている甲状腺検査は、七年が経過し、一八歳以下の受診率が低下し、調査の縮小の議論も出されています。今も多くの人々の健康不安は大きく、被ばくした事としてしっかり向き合い健康管理と生活保障を求めなければなりません。

集会後は分科会が行われ、自分が参加した第二分科会は「放射性廃棄物・除染廃棄物の処理問題」について、田村市で放射能汚染された木を燃料とする木質バイオマス発電が計画されていることについて「大越町の環境を守る会」の久住さんが報告、山口原子力資料情報室共同代表は「放射能は閉じ込めることが原則だ。木を燃やすことは拡散につながる」と批判しました。全国的原発再稼働反対の動きをさらに大きくし、原発、核、戦争がない平和な社会の実現に向けて今後も運動を頑張っていきたいです。

(小名浜支部 丹野泰希)

「東北地方青年婦人部交流集会大盛況 この社会を人間らしく生き抜いていきたい！」

七月十三日に茨城県日立市の「奥日立きらの里」にて東北地方青年婦人部三二名が集まり、毎年恒例である東北地方青年婦人部交流集会を開催しました。今回はパーベキューとキャンプを通して、より懇親を深めようという目的です。幹事会が終わり、やや強い空気が解放された若者達は、大自然の中で飲めや歌えやの大変な盛り上がりを見せられました。参加者からも「面白かった」「忘れられ



悲劇を今後二度とおこさないために、被害の実態を共有し、全国の原発再稼働反対の動きをさらに大きくし、原発、核、戦争がない平和な社会の実現に向けて今後も運動を頑張っていきたいです。

(小名浜支部 丹野泰希)

七月十三日に茨城県日立市の「奥日立きらの里」にて東北地方青年婦人部三二名が集まり、毎年恒例である東北地方青年婦人部交流集会を開催しました。今回はパーベキューとキャンプを通して、より懇親を深めようという目的です。幹事会が終わり、やや強い空気が解放された若者達は、大自然の中で飲めや歌えやの大変な盛り上がりを見せられました。参加者からも「面白かった」「忘れられ

活を脅かす課題もあります。でも、団結し困難に立ち向かっていかなくてはなりません。交流すること、団結することの大切さを東北の仲間、方と交流し、団結・連帯しながらこの社会を人間らしく生き抜いていきたいと思えます。

(東北地方ひたち支部 青年女性部部長古内厚志)

44回世界大会の成功に向けて積極的に参加することも、新たに決定される向こう5年間の方針に団結して国際連帯活動の推進をはかる。全国港湾を舞台とするインスペクタは一人である。次世代の国際活動家の養成に着手し、全国港湾としての国際活動の強化を図る。国際運動活動家として広く応募を呼びかけることから進める。

国民的諸課題に関して、その課題が港湾労働者にとって、どのような問題かを鮮明にし、国民的な運動(共闘関係)とは一致点を大事にして取り組みを進める。

憲法改悪反対(9条守れ)、改悪された労働法制の廃棄と港湾への適用反対など、平和と民主主義の国民的たたかひに合流して取り組み。辺野古新基地建設反対の取り組みとして、港湾労働者として、「基地建設のための埋め立て土砂を搬出させない」立場で取り組みを進める。また、「戦争の被害者にも加害者にならない」、「あらゆる戦争への企てに反対する」との立場から、陸・海・空・港湾20労組に結集して取り組み。日本航空不当解雇争議について、国民支援共闘の共同代表として積極的に取り組む。

以上

な思い出になった」との言葉をいただき、主催側として感慨深いものであります。途中に予期せぬハプニングもありましたが、都度一生懸命に対応し、まとめ上げてくれたひたち支部の仲間には感謝してもきれません。

さて、我が東北地方青年婦人部は八支部で構成され、登録人員は約五〇〇名を数え、今年二七回目の定期大会を迎えます。支部によっては青年部創設から四〇年以上の歴史を持ち、先輩方は常に先頭に立ち続け、全港湾の運動をリードしてきた方々であり、受け継いだバトンの重みを日々ひしひしと感じております。

東北青婦部では先日開催した交流集会をはじめ、春・秋の学習会、定期大会、春闘討論集会の際に計五回の幹事会が開かれ、各支部の代表者により様々な議論がなされました。また、交流集会と学習会は、各支部持ち回りでテーマの選定から企画と運営までを自分達で行います。他にも沖縄平和行進、脱原発に関する集会やキャラバン行動などの場を通して活発に議論や交流をしており、支部間の結びつきも強いものがあります。支部を越えて何かと相談や協力をしていく関係は代々伝承されてきており、労働組合の基本にある「団結」がそこにはあると感じます。

現代社会において、今なお解決しない米軍基地の問題、福島第一原発事故の収束といった社会的な課題があり、さらには労働力の機械化、各事業の規制緩和が世界規模で進むといった雇用や生

あるいは日港協自身が情報技術・自動化の導入に前めりな姿勢を発信している。しかし、導入したいとする根拠や必然性、現実にある飛鳥ターミナルの現状や社会実験の結果などについては、何も語られていない。政府が打ち出すIT戦略を港湾に置き換えて説明しているだけである。この「合理化」に反対を貫くためには、組織内・職場の団結と反撃への体制、その前提としての意思統一が土台である。とりわけ、国際戦略港湾に位置付けられた港湾を有する地区港湾には陰に陽に政策的な圧力がかかることも予見出来る。したがって、こうした諸政策や施策の表れを地区港湾と一体的に日常的なチェックしながら、丁寧な組織運営と内部検討に努めながら、反対の運動を取り組むこととする。また、取り組みにあたっては、全国港湾の要求と政策的に一致する政党との政策懇談を重ねるなどして、共同の取り組みをはじめ、これまでの運動の到達点を生かして積極的な運動を推進する。

中央・単組・地区港湾の相互

全国港湾一八年度運動方針案(抜粋)

全国港湾運動方針案の中から「2018年度の運動の基調と基本的課題について」の項より抜粋し一部を掲載します。ご参考に。

18年度は、次の基調と基本的課題を掲げて港湾産別運動の前進を期すこととする。

労使継続課題「積年の労使課題」を着実に解決していく取り組み

18春闘協定は、労使の積年の課題をほぼ網羅する形で合意してきており、この合意内容を「具体化し、一歩でも二歩でも踏み出す」ことが重要である。すでに、春闘後の政策委員会を3度開催して、課題の整理と協議する場を確保してきている。課題とめざすべき到達はすでに明瞭であり、労使政策委員会をはじめ各種専門委員会を積極的に活用して取り組むこととする。

政府、船社、荷主が一体的に推し進める体制的「合理化」とたたかう

政府と資本が一体となって進める港湾政策の変化が、否応なしに産別運動の課題として突きつけられてくる。しかし、海運・港湾の変化、或いは「自動化」や「機械化」は、「港湾労働者の雇用と職域を直撃するもの」であり、それらの施策の具体化や導入には反対の立場を堅持して取り組む。いま、政府やユーザー、

先輩方が教えてくれました。その教えを携え全国の仲間、さらには組織を越えた多くの方と交流し、団結・連帯しながらこの社会を人間らしく生き抜いていきたいと思えます。

(東北地方ひたち支部 青年女性部部長古内厚志)

44回世界大会の成功に向けて積極的に参加することも、新たに決定される向こう5年間の方針に団結して国際連帯活動の推進をはかる。全国港湾を舞台とするインスペクタは一人である。次世代の国際活動家の養成に着手し、全国港湾としての国際活動の強化を図る。国際運動活動家として広く応募を呼びかけることから進める。

国民的諸課題に関して、その課題が港湾労働者にとって、どのような問題かを鮮明にし、国民的な運動(共闘関係)とは一致点を大事にして取り組みを進める。

憲法改悪反対(9条守れ)、改悪された労働法制の廃棄と港湾への適用反対など、平和と民主主義の国民的たたかひに合流して取り組み。辺野古新基地建設反対の取り組みとして、港湾労働者として、「基地建設のための埋め立て土砂を搬出させない」立場で取り組みを進める。また、「戦争の被害者にも加害者にならない」、「あらゆる戦争への企てに反対する」との立場から、陸・海・空・港湾20労組に結集して取り組み。日本航空不当解雇争議について、国民支援共闘の共同代表として積極的に取り組む。

以上